

経済財政諮問会議（令和４年第８回）  
新しい資本主義実現会議（第９回）  
議事録

内閣府政策統括官（経済財政運営担当）

経済財政諮問会議（令和４年第８回）  
新しい資本主義実現会議（第９回）  
議事次第

日 時：令和４年６月７日（火）17:03～17:44  
場 所：総理大臣官邸２階大ホール

１．開 会

２．議 事

- （１）新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画（案）
- （２）経済財政運営と改革の基本方針2022（案）

３．閉 会

（山際議員・新しい資本主義担当大臣）　ただ今から「経済財政諮問会議」と「新しい資本主義実現会議」の合同会議を開催いたします。

本日の議題は、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」と「経済財政運営と改革の基本方針2022」、いわゆる「骨太方針2022」です。

#### ○「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画（案）」

（山際新しい資本主義担当大臣）　最初の議題は、新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画です。

5月31日に実現会議に付議した案について、与党における調整が終了した案を黄川田内閣府副大臣から説明します。

（黄川田内閣府副大臣）　担当の副大臣の黄川田仁志でございます。私から説明をさせていただきますと思います。

まず、資料1をご覧ください。5月31日の新しい資本主義実現会議以降の主な変更点を説明いたします。

8ページ、NISAについて、抜本的な拡充を図る旨を明確化するため、表現を変更いたしております。

また、8ページから9ページ、出世払い型奨学金の本格導入について、基本的な考え方をより具体化しております。

飛ばして、15ページ、スタートアップ育成について、まずは実行のための司令塔機能を明確化する旨を分かるようにするため、表現を変更いたしております。

22ページ、自動車のGXについて、電動車の定義を明確化するため、「いわゆる電動車（電気自動車、燃料電池自動車、プラグインハイブリッド自動車及びハイブリッド自動車）」と追記いたしました。

34ページ、文化芸術・スポーツ振興、これらは重要でございますので、その項目を新たに追記しております。

主な変更点を御説明させていただきました。

以上でございます。

（山際新しい資本主義担当大臣）　それでは、順に御発言をいただきます。

まず、翁委員、お願いいたします。

（翁委員）　「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（案）に賛同いたします。

特に今回は「人への投資」、科学技術、スタートアップ、DX（デジタルトランスフォーメーション）・GX（グリーントランスフォーメーション）への投資が主要政策に掲げられています。いずれも重要であり、日本経済がダイナミズムを取り戻し、付加価値生産性を向上させ、持続的成長を実現するために不可欠です。

また、これらの取組が賃金の上昇や男女賃金格差などの是正につながり、多様な

人々が安心して活躍できるインクルーシブな社会に変わることを提言していることも重要と考えています。この実行計画を実効性のあるものに具体化し、実現していただきたいと思います。

また、この実行計画は、政府だけでなく民間企業や投資家、項目によっては個人レベルで理解してもらうことが必要です。その意味では、政策実現に当たってどのように説明すれば企業や人々に働きかけられるか、行動経済学的視点も入れながら検討し、分かりやすい説明をお願いしたいと思います。

これからの数年間は日本の将来を決める大事な時期であり、スピード感を持って改革を行い、政策を推進することを期待しております。

以上でございます。

（山際新しい資本主義担当大臣）　ありがとうございました。

続いて、川邊委員、お願いいたします。

（川邊委員）　「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（案）の与党内での議論を踏まえた修正箇所について説明をいただいたが、内容がより強化され、より多くの人に適用された内容であったため、特に異論はございません。

先週末、私は「B Dash Camp」というスタートアップイベントに参加しまして、数百のスタートアップ企業の前で、「新しい資本主義実現会議の実行計画にもスタートアップ支援が重点的に盛り込まれている。いよいよ皆さんが日本経済の成長を担う時代。日本の未来は明るい」という話をメインスピーカーとしてしました。正直、スタートアップの人たちは新聞を読んでいない人が多くて、この重点計画にそういったものが盛り込まれているという認識をそのときに初めて持った人たちも多かったため、大変盛り上がりました。鉄は熱いうちに打てというため、是非スタートアップ支援の具体策を迅速かつ着実に優先順位を上げて実行していただければと思います。日本の経済成長は、そういった支援を受けたスタートアップ企業を含め、民間が主体的に担ってまいりたいと思っております。

（山際新しい資本主義担当大臣）　ありがとうございました。

続いて、櫻田委員、お願いいたします。

（櫻田委員）　まずは、この「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（案）の策定に御尽力いただいた皆様に感謝申し上げたいと思います。

その上で、一点だけ御意見します。戦略や計画は、企画以上に実行が重要であり、実現にこだわらなければなりません。そして、その実行と実現には国民の共感と熱量が必須です。その意味では、新しい資本主義は本日スタート地点に立ったのであって、官民双方が変革への強い覚悟を持って国民に訴えていくことが重要だと思っています。

これまでも成長戦略には詳細な工程表やK P I が附属されておりましたが、政策過程に詳しくない私ども普通の国民には複雑過ぎて、進捗や達成状況が見えてきま

せん。継続性の観点から多くの施策が翌年の工程表に引き継がれますが、時々的重要テーマに伴って整理の仕方が変わるため、前年との違いや進捗の検証がやや難しい面があります。そのため、今回の実行計画では、総理が最も重視するアジェンダのK P Iは毎回の会議で進捗を報告するなど、国民から見て分かりやすく、透明性の高いシンプルなP D C Aサイクルを構築してはいかがでしょうか。

国民を巻き込み、誰もがわくわくする新しい資本主義が実現することを期待するとともに、私も一経営者として、実行・行動を通じて民間企業の責任を果たしてまいりたいと思います。

（山際新しい資本主義担当大臣）　ありがとうございました。

続いて、澤田委員、お願いいたします。

（澤田委員）　今回の「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（案）は、社会課題を成長の機会と捉え、中長期的視点に立ったマルチステークホルダー重視経営を誘導することにより、「人への投資と分配」並びに社会全体の成長をもたらそうとするものであり、将来に向けて非常に重要な方向性が盛り込まれているものであるため、心から支持したいと考えております。

しかしながら、過去から課題として継続しているような項目も存在しており、加えて、非常に広範囲かつ網羅的に重要案件が含まれているため、今後優先順位づけを行って、着実に実行し、定着させていくことが非常に重要だと考えております。

中でも、地政学的リスク並びにパンデミックなどを考慮した経済安全保障の観点から、既に強化がうたわれているエネルギー・食品・半導体・医薬品なども含めた重要物資並びにその原料や材料も含めたサプライチェーンの確立、イノベーションから成長を促す人材育成を含めたエコシステムの確立、企業に中長期的視点での経営を促す施策対応並びに評価方法の確立を優先して、具体的に進めていただければ幸いです。

関西におきましても、今回の「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」を第一歩として受け止め、周知を図るとともに、今後とも継続的議論を求め、調査・提言活動を行うとともに、研究開発の強化、賃金の引上げやパートナーシップ構築宣言の趣旨にのっとり取引適正化の促進について進めていきたいと考えております。

（山際新しい資本主義担当大臣）　ありがとうございました。

続いて、渋澤委員、お願いいたします。

（渋澤委員）　今回の「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（案）を読み直して、改めて感じたことがあります。今までの政府の総合的な経済政策で使われていなかった表現が数か所掲載されています。それは「インパクト」という表現です。これは社会的課題、環境的課題を解決しながらも、きちんと経済的リターンを上げるということになりますので、正に新しい資本主義とは、新しい時代に

必要な誰一人取り残さない包摂性があるインクルーシブな資本主義だということが確認できました。

是非とも、これを、世界をリードするという意気込みで、T I C A D（アフリカ開発会議）及び様々な世界の舞台で是非総理から世界に発信していただきたいと思っています。

新しい資本主義を実行するために必要なものはもちろん財源ですが、新しい資本主義というのは政府が民間の代わりになるものではないと理解しています。政府の役割はあくまでも新しいお金の流れを創ることだと思っています。そういう意味で、資料2には何点か今後のフォローアップとして是非検討していただきたい事項がありますので、是非ともよろしくお願いします。

（山際新しい資本主義担当大臣） ありがとうございます。

続いて、諏訪委員、お願いします。

（諏訪委員） 昨年の第1回新しい資本主義実現会議以来、7か月強にわたり、岸田総理をはじめ、皆様と新しい資本主義の在り方について意見交換するという貴重な機会を賜り、誠にありがとうございました。

私は昨年来、中小企業経営者として賃上げなど待遇改善を行いつつ、社員と共に未来に夢を抱き、社員がいきいきと働ける企業を目指すという信念に基づき、付加価値向上に資する取引価格の適正化やデジタル化の伴走支援、魅力的な製品・サービスを生み出すイノベーション支援、経営者保証の解除などについて申し上げてまいりました。今般、中小企業を力強くサポートする施策を多数盛り込んでいただき、感謝申し上げます。

この新しい資本主義実現会議のおかげだと思いますが、最近、とある信用金庫から、「中小企業は日本の経済を支える重要な役割を担っており、信用金庫業界としてもより一層中小企業を応援します」と直接お話をお伺いしまして、大変嬉しく感じました。

結びに、皆様の英知を結集して策定される「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」がスピーディーに実行され、大きな成果が上がることを心から期待しています。

（山際新しい資本主義担当大臣） ありがとうございます。

富山委員、お願いいたします。

（富山委員） 私も、基本的な背骨の部分として、渋澤委員が言われたように包摂性というのはこの後すごくキーワードになると思っています。これはいろいろな意味でです。世界に対する新しさはそこはかなり収斂すると思っています。そこを是非ともよろしくお願いします。

少し話題は変わりますが、今日、非常に悲しい知らせがありました。ソニー株式会社元社長・会長・CEOの出井伸之さんがお亡くなりになりました。出井

さんという方は、当時の主流経済人では彼だけだったのではないかと思います、25年前にデジタル時代の到来を言われた方です。更にソニーを変えようと尽力した方で、25年掛かって明らかにソニーは変わったわけです。その時に、もし100人の主流な経済人が同じことをやっていれば、今は大分変わっていたはずですよ。さらに、ガバナンス改革も彼が最初に取り組んでいます。同時に、出井さんはマネックスやI S A K（インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢）もそうですし、我々の経営共創基盤を作る時にも座長役で応援してくれた方。要するにスタートアップ推進に本当に体を張ってコミットして応援してくださった方です。

今日の話題とは少しずれるのですが、こういう話は最後、先ほど川邊委員が言われたように、日本の経済成長を担うのは民間ですから、我々自身が出井さんのように本気になって自分の会社を変えていく、それから若い世代を応援していく必要がある。出井さんは一人だったかもしれないけれども、今はここにこれだけの方がいるわけですから、このことに真剣に取り組んでいかなければならないなと思いました。たまたま今日この新しい資本主義実現会議があったということは、ある意味、出井さんの思いがあるのかな、この辺にいるのかなと思っているので、是非是非頑張りますので、どうぞよろしくお願いします。

（山際新しい資本主義担当大臣）　ありがとうございました。

続いて、十倉委員、お願いいたします。

（十倉委員）　経団連が掲げます「サステイナブルな資本主義」は、岸田内閣の新しい資本主義と軌を一にすると申し上げてきました。資本主義は、優れた制度であり、自由で活発な競争、効率的な資源配分、そして、イノベーションの創出などをもたらす、我が国の経済社会の大前提だと思います。しかしながら、行き過ぎた資本主義は、格差の拡大・固定化・再生産や、気候変動をはじめとした生態系の崩壊といった大きな社会課題をもたらしました。

総理は、前回の第8回新しい資本主義実現会議の最後に、市場任せだけでは解決できない社会的課題をエネルギー源として捉え、「人への投資」や、GXの推進などを通じて新たな成長を図るとおっしゃいました。資本主義の課題を克服できるのは資本主義だけであり、これこそが、新しい資本主義と考えます。同時に、総理は「成長と分配の好循環」ともおっしゃっています。成長も分配もどちらも重要です。成長については、「人への投資」や、科学技術・イノベーション投資、スタートアップ振興、GX・DXの推進など、官民一体で取組を進めていきたいと思っています。また、分配については、分厚い中間層の形成を目指すべきであると考えます。マイナンバーを活用した適切な給付や負担の実現など、税や社会保障について今後議論していくことが求められると考えます。

（山際新しい資本主義担当大臣）　ありがとうございました。

続いて、柳川委員、お願いいたします。

（柳川委員） 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（案）を、これだけまとめられたことに、関係者の方々に深く感謝を申し上げます。私は、かなり前から「人への投資」が重要だということを申し上げてまいりまして、こうした形でしっかり柱になったというのは大変ありがたく思っております。それから、皆さん、包摂性のような話をされましたけれども、様々な社会課題が出てきている中、これらをしっかり解決できるような人を育てていく、あるいは民間がリードして社会課題を解決していく、社会を構築していくのだということがしっかり柱になっている点もとても重要だと思っております。

ただ、当然これがすぐに実現できるわけではないわけです。詳細なプロセスをもう少し詰めていかなければいけません。それであっても、今日・明日・来月に、すぐに実現するわけではないのだと思うのです。新しい資本主義を創っていくのだから、ここはある程度時間が掛かる面も覚悟した上で、そのプロセスをしっかりと実行していくことが大事だと思いますし、ある意味で時間が掛かってでもしっかりと実行していく、実現させていく、そういうことを決意している文章だと思いますので、我々としてもしっかりと実現できるように決意を持っていきたいと思っております。

（山際新しい資本主義担当大臣） ありがとうございます。

続いて、平野委員、お願いします。

（平野委員） 私は最近、夜に寝る前に、自分に投げかけている質問があります。それは、数世代先の世代から見た時に、自分が良き祖先であったのかという質問です。今日は良かったなとか、ちょっと駄目だったなとか、自己採点しています。

この「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（案）に対して、数世代先の私たちの子孫が、私たちを良き祖先であったと感じるかは分かりませんが、この案に到達したということは一定の成果であったと考えています。「はじめに」にあるように、「資本主義を超える制度は資本主義でしかあり得ない」と現時点で言い切ったことには、歴史的意義があると考えています。そして、それを前提にこの新しい資本主義実現会議が続くのであれば、これから2つの使命を担うべきと考えています。一つ目は、短期的に実行計画の進捗を見守り、推進を支援すること。そして二つ目は、長期的にGDPを代替する指標を模索することです。気候変動を代表とする社会課題解決と、誰一人取り残さない持続的な幸福を実現するためには、サーキュラーエコノミーやシェアリングエコノミーなどの新しいシステムの拡大は不可避ですが、GDPでは測定にそぐわないことがあります。新しい指標を見つければ、資本主義をアップデートした、いや、資本主義を超えるシステムを創造したことで、未来から見て良き祖先であったと呼ばれるかもしれませんし、そうなることを期待しています。

（山際新しい資本主義担当大臣） ありがとうございます。

続いて、松尾委員、お願いいたします。

（松尾委員） 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（案）は、素晴らしいものになったと思います。関係者の御尽力に感謝いたします。

私は、日々、大学で、A I の研究・教育とスタートアップの育成といったことを行っておりますが、日々痛感していることがあります。それは、若い人と新しい技術に活躍の場を与えれば、必ず成長するということです。成長しないのは、我々大人あるいは社会がその成長を阻んでいるからです。若い人には、素晴らしい才能があります。これはいつの時代もそうです。新しい技術にも素晴らしい可能性があります。これを期待して信頼する。これさえできれば、必ず経済は成長していくと思います。

今回の「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（案）では、人・技術・スタートアップへの投資ということがその中心になっていて、大変素晴らしいと思っています。これが実効性を持って具体化されるように、是非ともしっかりと進めていただければと思っています。

（山際新しい資本主義担当大臣） ありがとうございます。

続いて、三村委員、お願いいたします。

（三村委員） 資本主義のバージョンアップを掲げ、社会課題解決と成長の両立により我が国経済の長期停滞の克服を目指す政策パッケージがこのように取りまとめられたことを高く評価したいと思います。

2000年には世界第2位であった我が国の1人当たりGDPは、昨年、残念ながら第28位にまで後退しております。できる限り多くの国民が我が国の停滞に対する危機感を共有し、現在の苦境を変革のチャンスとすべきであり、そのための道筋が示されたと考えております。後は、実行あるのみです。特に、新たな官民連携に期待したいと思います。政府がリスクをシェアしつつ、市場の効率性を最大限に活用し、民間の投資を強力に後押ししてイノベーションを促し、経済の長期停滞から脱却する契機となることを強く望みます。

また、その主要テーマである産業のGXにつきまして、真に日本の成長につなげるためには、挑戦的で粘り強い取組と、現実的で柔軟な取組とが不可欠であります。我が国の自然条件の不利を逆転すべく、技術開発を加速するとともに、何回も言って申し訳ありませんけれども、原子力発電に関して安全最優先の早期再稼働と設備利用率向上に向けた取組をお願いしたいと思います。

最後に、貴重な財産である過去の成長戦略のKPIを今回の計画にも的確に位置づけていただき、総合的なフォローを継続いただきたいと思います。

（山際新しい資本主義担当大臣） ありがとうございます。

続いて、村上委員、お願いいたします。

（村上委員） 今回の「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（案）は、新しく掲げられた優先分野のみならず、過去何年も日本の課題として挙げられ

ていた分野も含まれた大変網羅的な内容になっていると考えております。

それでは、今回何が違うか。これは大変重要な問いだと思います。この問いに対して、私は個人的に、日本の社会・経済を動かすOS（オペレーティングシステム）を変えたと考えるべきではないかと思っております。つまり、バージョンアップというよりは、根本的にアップデートされた価値観に基づいた新しいOSを日本が導入し、そのOSの上で新しい資本主義を走らせるがゆえに、過去に挙がっていた課題も、今回異なったアプローチを用いて解決していくということだと考えております。アップデートされた価値観には、正に「人への投資」や多様性の重視、イノベーションがもたらす恩恵を包含的に社会が享受するということに対する理解や、その理解の重要性、包摂性の重要性、こういったものが含まれると考えています。

今回の政策を分かりやすく国民に説明し、最も重要なアクターである民間企業や投資家、スタートアップを含む若い人たちが、新しい資本主義の実現に向けて希望を持つことが大変重要だと思います。私はベンチャーキャピタリストとして毎日多くのスタートアップの方々に会っておりますが、すばらしい熱意を持っております。そういった方々の後押しをするというのが、今後、私たちが頑張っていかなければいけないことだと考えております。

（山際新しい資本主義担当大臣）　ありがとうございます。

米良委員、お願いいたします。

（米良委員）　関係者の皆様、取りまとめ、本当にお疲れ様でした。

私からは会議の感想として、新しい資本主義実現会議の新しいと思う点について3点挙げさせていただきます。

まず、有識者メンバーのうち半数が女性であるという会議スタイルです。本会議は開始20分ほど前から委員たちが集まり、井戸端会議のようになり、そこに大臣も集い、非常に和気あいあいと一体感を感じるものでした。

二つ目に新しいと感じたことは、岸田総理のリーダーシップです。自ら壮大なビジョンを掲げながら、強引に目標を達成していくというトップダウン式のリーダーシップはもう時代遅れかもしれません。私たちの価値・人生感は多様化していて、それをトップが持つ夢一つに集約していくことは不可能です。これからの時代は、それぞれの人が持つビジョンをそれぞれの方法で達成していけるような、人の持つ創造力や夢などといったものが大切になるのではないかと思います。それ以外の仕事はデジタルやAIが担うでしょう。新しい資本主義で、岸田総理は私たちのそれぞれのビジョンを聴き、成長させると言ってくれました。人それぞれの活躍の舞台を俯瞰しながら演出する、新しい資本主義のリーダー像だと思います。

三つ目は、社会起業家との車座で感じたことです。総理は、ホームレスの方や地方の過疎化の状況など、経済から置き去りになりそうな人たちに向き合い、若者の声を真剣に聴き、そしてその課題解決を今回の方針の中心に掲げていただきました。

新しい資本主義のインクルーシブな経済は、総理が社会課題の細部まで目を届かせ、耳を傾け、そして、その声を大切にする姿勢から実現されるものだと思います。

この会議に参加させていただき、本当にありがとうございました。

（山際新しい資本主義担当大臣）　ありがとうございました。

芳野委員、お願いいたします。

（芳野委員）　「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（案）の5ページ、適正な賃金引上げの在り方について検討を行う旨の記載が追記されていますので、一言発言させていただきます。

「成長と分配の好循環」を実現するためには、記載のとおり「人への投資」と継続した賃上げの実行が必要不可欠です。とりわけ物価上昇などの局面にある中では、実質賃金を維持・向上させる努力が必要であり、こうした認識を共有した上で、経済の責任を担う政労使がそれぞれの役割を果たすことが大切です。政府には、賃上げしやすい環境整備にこれまで以上に御尽力いただきたいと存じますし、労使は生産性向上に努力し、生産性三原則に基づいた交渉で労働条件を決定していくべきだと考えております。

（山際新しい資本主義担当大臣）　ありがとうございました。

それでは、お手元の案を最終的に新しい資本主義実現会議の取りまとめとしたいと存じますが、皆さんよろしいでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

（山際新しい資本主義担当大臣）　ありがとうございました。それでは、お手元の案で取りまとめさせていただきます。

#### ○「経済財政運営と改革の基本方針2022（案）」

（山際議員）　次の議題は、「骨太方針2022」です。資料3にありますように、総理から諮問をいただいております。なお、骨太方針の副題につきましては、総理と御相談をしまして「新しい資本主義へ～課題解決を成長のエンジンに変え、持続可能な経済を実現～」としております。

それでは、骨太方針の答申案について、黄川田内閣府副大臣から説明いたします。

（黄川田内閣府副大臣）　資料4－1をご覧ください。骨太方針について、前回の諮問会議での議論や与党での審議等を踏まえた主な変更点を説明いたします。

第1章を飛ばして、第2章の主な変更点を御説明いたします。まず、4ページです。「人への投資と分配」について、趣旨を分かり易く、項目ごとに整理し直しました。5ページ、2行目から3行目、少子化対策・こども政策が、「人への投資」としても重要である旨を記載しております。6ページ、19行目から21行目、賃上げ

・最低賃金について、足下の物価上昇について追記し、賃上げの重要性を明確化しました。11ページ、10行目から11行目、DXについて、マイナポータルなどの記載を追記しました。19ページ、17行目から22行目、観光について、国内需要喚起策、観光地・観光産業の再生・高付加価値化の記載を具体化いたしました。

第3章、21ページ、2行目、外交・安全保障双方の大幅な強化が求められていること、26行目、防衛力を5年以内に抜本的に強化することを記載いたしました。23ページの18行目と、24ページの1行目、エネルギー安全保障と食料安全保障について、それぞれの重要性に鑑み、項目を独立させて記載しております。

第5章、36ページ、24行目から26行目、「令和5年度予算において、本方針及び骨太方針2021に基づき、経済・財政一体改革を着実に推進する」とした上で、「ただし、重要な政策の選択肢をせばめることがあってはならない」との一文を加えております。

私からの説明は以上です。

（山際議員） ただいま説明のあった答申案につきまして、民間議員から御発言をいただきます。まず、新浪議員、お願いいたします。

（新浪議員） ありがとうございます。

与党との間のセッションもたくさんあり、大変お疲れ様でございました。お礼を申し上げます。2点ばかりお話を申し上げたいと思います。

日本経済の安定成長の基盤となるのは、何といたっても国債の信認だと、これは間違いないことだと思います。その中で、とりわけ経常収支がマイナスに絶対になってはいけません。むしろ、今の状況を反転させる必要があるのではないかと。最近の円安基調を踏まえれば、リスクは高まっているのではないかと思います。しっかりとモニタリングして対応していく必要があります。

その中で、経常収支のトレンドを変えるというのは、早急に手を打っていかねればいけないのではないかと。ある一定の期間、円安はある程度続くという大前提において、今まで目標を持ってやってきましたが、FDI（Foreign Direct Investment）、対日投資にもっと真面目に取り組むべきではないか。そのような中で、是非ともスタートアップ、中堅・中小企業に対する投資、とりわけ米国は中国から資本をある程度引いて日本へ投資しようということを今考えている方もいると聞いております。是非ともこれができる仕組みづくりをしていただき、そして最終的には中堅・中小企業が輸出も拡大ができるようになれば良い。7割にも当たる労働力が中堅・中小企業にあります。それは最終的には賃上げにもつながってまいります。これを是非お願いしたいと思います。

それと、エネルギーで20兆円規模の資金が海外に流出しております。長期的には一生懸命、政府でも、長期的には、原発の活用も含め、エネルギー自給率を上げるということに取り組んでおられますが、ここもスタートアップが大変活躍できる場

だと。実はエネルギー分野のスタートアップ、ジェネックスだとかエネチェンジだとか、色々な会社が出てきております。デジタルを使うことによってエネルギー需給の最適化もできる技術が出ております。これを早期に実装することによって、省エネを是非とも実現し、少しでもこの経常収支のトレンドを変えるべきだと思います。

最後に、食料面です。世界で食料の争奪戦が激化しております。国内農業の発展は極めて重要であり、こちら民間企業がもっと参入して、D Xを活用して、生産性を上げて、食料の自給率を高めることができるように、取り組んでいただきたいと思います。

（山際議員）　ありがとうございました。

続いて、中空議員、お願いいたします。

（中空議員）　ありがとうございます。

「新しい資本主義へ」という副題がついた、いわゆる骨太方針ですが、重要なポイントが網羅され、内容は整理されていると思います。関係者の方々、本当にありがとうございました。ここまで来られたことに感謝したいと思います。あとは実行あるのみということになると思うのですが、実行していくに当たって3点申し上げたいと思います。

1点目は、データの整備です。E B P MにしろP D C Aにしろ、あるいは効率的な分配も、コロナ予算の効果検証も、全てにわたってデータの整備はとても大事になってきます。これを徹底することがとても大事だということを強調しておきたいと思います。

2点目は、成長の原資、源泉として、私はサステナブルファイナンスが大変重要だと思っているのですが、既にこの骨太方針は金融市場での関心も高まっておりまして、150兆円超の官民投資ですとか、G X経済移行債については問合せが増えております。ここまで来ると、「将来の財源の裏付けをもった」と書いてあることが一体どういうことなのかなど、様々詰めなければいけないことが出てきています。ただ、時はもう既に待ったなしなので、この機会を踏まえてどんどん進めていけたらと考えます。

3点目は、またこれもあえて申し上げたいのですが、2025年度P B黒字化、財政健全化というのは、今こそ重要だと思います。日本国債の信用が必要だということを新浪議員がおっしゃいましたが、日本国債の信用を保つためにも、財政健全化の旗を下ろしてはならないと、今あえて申し上げたいと思います。

（山際議員）　ありがとうございました。

続いて、十倉議員、お願いいたします。

（十倉議員）　ありがとうございます。

今般の骨太方針の副題はすばらしいと思います。経団連の方針と軌を一にするも

のでもあります。

骨太方針の本文でも、経済財政運営を進めるにあたり、予算の単年度主義の弊害を是正し、GX（グリーントランスフォーメーション）の推進など、中長期の国家課題に計画的に取り組むことが示されましたことも大変すばらしいと思います。今後も財政健全化の旗を下ろさずに、経済あつての財政の考え方の下、官民が連携して計画的に重点投資を進めていくことが肝要と考えます。

一方で、今後の課題は、先ほど申し上げました分厚い中間層の形成かと思います。税制や社会保障制度の議論を通じまして、国民の安心を確保し、持続的な賃上げが個人消費に回るよう、適切な給付と負担の実現を目指すべきであります。これに関して2点ほど申し上げます。

1点目は、税や社会保険料の議論には、現役世代の可処分所得への配慮や、年齢を問わず、負担能力に応じた拠出といった観点を踏まえる必要があるという点でございます。

2点目は、マイナンバーの活用であります。1に、負担の前提となる経済力の正確な把握、2に、給付と個人の資産・所得情報との効率的な情報連携、3に、給付を速やかに行うための基盤整備といった事項をマイナンバーの活用を通じ速やかに実現すべきと考えます。現時点で対応が不十分な点があれば、迅速な対応が求められると考えます。

（山際議員）　ありがとうございます。

続いて、柳川議員、お願いいたします。

（柳川議員）　骨太方針に関しても、大変しっかりとしたものをまとめていただき、関係者の方々に深く感謝いたします。

申し上げるまでもなく、経済・社会情勢はかなり大きな岐路に立っておりまして、世界全体で大きな環境変化が起きております。こういう中で、課題解決を成長のエンジンに変えるという強い言葉で副題がついている骨太方針がまとめられたことは非常に大きな意義があると思っております。

その点で、細かい点を4点申し上げさせていただきます。

1点目は、先ほども申し上げた「人への投資」でございます。これが重要な成長のエンジンであることは間違いありません。ただ、人への投資は、いわゆる企業収益を上げるだけではなくて、一人一人の生活あるいは安全をしっかりと確保するためのものであって、ある意味で希望のためだと思うのです。国民の希望のために人への投資があるということがしっかり書かれていることはとても大事ななことかと思います。

2点目が、先ほど新浪議員のほうからお話がありましたが、経常収支をしっかりと黒字にしていくことは非常に重要なことでございまして、輸出をどれだけ拡大していくか、対内投資を増やしていくか、輸出の中では食品産業は自給率を高める上でも非常に重要なところだと考えております。

3点目は、こういう大きな変革の実現にはやはり財政的な対応も必要なのですが、残念ながら全てのところに大盤振る舞いをするというわけにはいきませんので、大事なところにしっかり政策を対応させて、成果を出していくことが改めて求められると思います。そのためには、ずっと申し上げていることですが、E B P Mの促進であるとか、アウトカムベースの政策評価をして、しっかりとしたワイズスペンディングをしていくこと、それから短期にあまりにとらわれずに、中長期的な視点に立った政策プランニングが必要だと、こういうことは改めて強調したいと思います。

最後に、経済を活性化させて、しっかりと財政を健全化させていくことは、先ほど中空議員のほうからお話がありましたけれども、とても大事なことだと思っております。前回申し上げましたが、財政が健全化しないと、国民の安心の基盤が揺らぎます。それから、財政の赤字がどんどん膨らんでいくと、結果として将来選択可能な政策の選択肢が狭まってしまうということも起きます。そういう意味では、これからの未来を考える上では財政健全化の旗を降ろさずに、しっかりと実現させていくということが重要であることを改めて強調したいと思います。

（山際議員）　ありがとうございます。

それでは、お手元の案を経済財政諮問会議として答申する、このことを決定したいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

（山際議員）　ありがとうございます。それでは、本案を答申として決定いたします。

それでは、総理から締めくくりの御発言をいただきますので、プレスの皆さんに入室していただいてください。

（報道関係者入室）

（山際議員）　それでは、総理から締めくくり発言をいただきます。

（岸田議長）　本日は、「新しい資本主義のグランドデザイン・実行計画」と「骨太方針」について、取りまとめていただきました。

「新しい資本主義のグランドデザイン・実行計画」については、市場で解決できない外部性の大きな社会的課題について、この課題をエネルギー源と捉え、新たな成長を図ります。スタートアップやグリーントランスフォーメーション、資産所得倍増について、複数年度にわたる具体的なプランを本年中に策定し、実行いたします。

本年の骨太方針では、機動的なマクロ経済運営によって経済回復を実現しながら、「新しい資本主義」の実現に向けた計画的で重点的な投資や規制・制度改革を行い、成長と分配の好循環を実現する、岸田内閣の経済財政政策の全体像を示しています。

次は実行です。参議院選挙後に、本日決定した方針を前に進めるための総合的な方策を具体化し、エネルギー分野を含め、経済社会の構造変化を日本がリードしてまいります。

同時に、国際環境の変化にも対応していかなければなりません。我が国をめぐる安全保障環境は一層厳しさを増しており、我が国が自らを守り抜く安全保障体制の整備を加速する必要があります。

5月23日の日米首脳会談では、私から、日本の防衛力を抜本的に強化し、その裏付けとなる防衛費の相当な増額を確保する決意を表明し、バイデン大統領から強い支持を得ました。

今般閣議決定する骨太方針に盛り込まれているとおり、国家安全保障の最終的な担保となる防衛力を5年以内に抜本的に強化いたします。将来にわたり我が国を守り抜く防衛力を構築すべく、様々な取組を積み上げていき、その上で、必要となるものの裏づけとなる予算をしっかりと確保していきます。その際、内容、金額、財源の3点セットで議論を行ってまいります。

具体的な計画については、本年末に策定する新たな国家安全保障戦略等として改めて内閣として閣議決定いたします。そして、その閣議決定を基に、令和5年度予算を編成してまいります。

これらを含め、本日決定した方針に盛り込んだ様々な政策をしっかりと進めてまいります。

（山際議員）     ありがとうございました。

それでは、プレスの皆さん、御退室をお願いいたします。

（報道関係者退室）

（山際議員・新しい資本主義担当大臣）     「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」につきましては、本日この後、持ち回りの新しい資本主義実現本部において決定し、その上で、持ち回りの臨時閣議で決定いたします。

また、骨太方針2022につきましても、本日この後、持ち回りの臨時閣議で決定いたします。

これまで皆様方に本当に御尽力いただきました。私の立場からも心から感謝を申し上げます。本日の会議はこれで終了いたします。ありがとうございました。